

# 1 高校生活における事故防止と安全指導の研究

広島県立庄原格致高等学校	校長	壹 岐 芳 雅
	教諭	新 林 英 治
	教諭	嶽 光 男
	教諭	小 川 珠 美

I 学校の規模 学級数12 生徒数453 教職員数40

## II 学校の概要

### 1 学校の沿革

本校は、明治30年、私立格致学院として創始者小田源吉氏によって設立された。昭和13年に県に移管され県立格致中学、昭和24年の学校再編成により県立比婆西高等学校、昭和29年に県立庄原高等学校、昭和43年に県立庄原格致高等学校に名称変更され、現在に至っている。平成9年に創立百周年を迎えた、歴史と伝統のある学校で、卒業生も15,000名以上を輩出している。

### 2 地域の概要

庄原市は、広島県の北東部に位置し、それぞれ一つの町をはさみ、鳥根県、鳥取県、岡山県に隣接する位置関係にある。現在の人口は約21,000人で県内で最も人口の少ない市であるが、県立大学の誘致、国営備北丘陵公園の整備などを実現し、「学園都市・田園文化発信都市づくり」を目指し教育・文化の振興を積極的に推進している。地域住民の学校教育に対する関心も高く、学校行事にはたくさんの保護者や地域住民が来校される。

### 3 教育目標

校名の由来である「格物致知」は、中国の「大学」という書物にあることばで、「広く物の理を究めて、以て知識をみがき致す」という意味である。すなわち、物事に真剣に取り組み、知や技を我がものにするということで、「生徒の知と技を鍛え、特性を伸ばし、個性を磨く学校であり、生徒が自らの特性を磨こうと自己研鑽する。」ことを教育目標としている。

### 4 生徒の状況

通学範囲が広く、バイク通学も含み通学方法も多様である。寮生も6分の1を占める。その中、大半

の生徒が部活動をしている。また、文化祭や体育祭等の学校行事にも積極的に取り組み、大変な盛り上がりを見せている。全体的に明るく素直な生徒が多いが、反面のんびりし、指示を待つ生徒も多い。楽しいことには積極的に取り組むが、しんどいことや面倒くさいことにはやや消極的である。

一生懸命活動している部活動も、勝つために本当にしんどい部分をやりきろうとしているかというところまではやりきれないという感じの生徒が多い。学習面も含めて自分の力を把握し、やるべきことをやりきれような生徒に育てることが、今後の課題と考える。

## III 研究の経過

### 1 主題設定の理由

本校は、県内でも部活動への加入率が高く、放課後や休日にも、自分たちで一生懸命活動している。

また、体育の授業においても、氷点下となる冬場でも汗をかくほど動き回る生徒が多い。一方で、骨折・脱臼等の災害が後を絶たない。

こうしたことから、特に部活動時や体育時のけがの発生の要因を探り、災害予防や危機管理についての理解を深めさせ、より効果的な活動の実践と健康的かつ安全な高校生活を送らせるための方策はどうあるべきか、本研究に着手した。

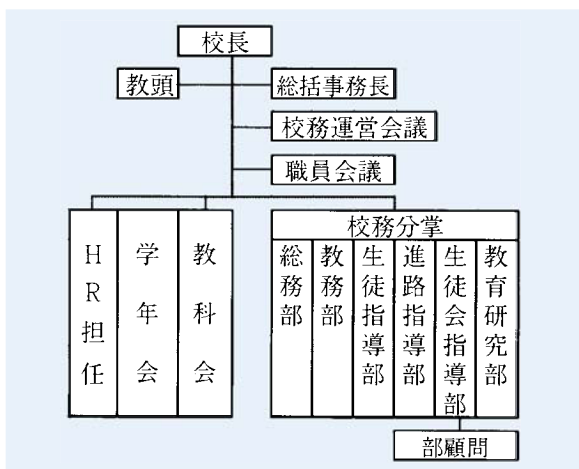
### 2 研究の方法

- (1) 本校の過去の学校災害等のデータ分析をすることにより、実態を把握し、課題を探る。
- (2) 他校との比較や視察により、本校の課題解決にむけて取組を進める。
- (3) 外部講師を招いての研修会及び講演会、本研究の報告会等を実施し、生徒・教職員の意識の向上を図り、災害防止に努める。
- (4) マウスガードの装着を実践し、その意義づけと実態を探り、安全に対する意識の向上を図る。
- (5) 学校組織及び授業、部活動等の内容・方法の見



直しを行う。

### 3 研究の組織



## IV 研究の概要と内容

### 1 実態調査

#### (1) 安全に対する意識アンケート

- ア 生徒対象 明海大学作成アンケート  
 H14年度 7月の講演前と後の2回  
 3月の1回  
 H15年度 10月の1回

#### (ア) けがの発生の原因は、自分の工夫や努力で防げると意識は高い。

反面、安全・運動・けがに対しての意識が高まっておらず、日常生活の中で具体的に実践出来ていない。

その要因として、本研究の意図を十分に理解しきれていないこともあるが、「安全で健康な生活」の捉えが、学校生活に留まり、日常生活の身近な問題に結びついていないことが挙げられる。

また、学校や家がともに田園地帯にあり、生活環境が静かで落ち着いている。その上、日頃緊急を要することがほとんど発生しないためか、呑気な生徒が多く、何事に対しても人ごとにしか捉えられていない。

#### (イ) 部活動において、J R ・バスの本数が少ない、寮生には門限がある等、部活動の時間確保が難しい状況にある。また、けが防止のため、ウォーミングアップやクーリングダウンの必要性を知りつつも割愛する部が多かったが、内容の見直し等を行い、計画的に取り組む部が増えた。

#### (ウ) (ア) で述べたように、安全意識については、未だに本気に考えようとしていない生徒が多いが、少しずつ自分に出来る方法で、改善しよう

と努めている生徒も増えている。

- ① シートベルトについては、「うっかり・面倒くさい」意識が前面にあるが、後部座席に乗るようにする等している。
- ② 自転車二人乗りについては、かなり減ったとは言え、まだ「楽しい」という気持ちが前面にあり、改善には至っていない。
- ③ 応急手当について、1年次より「出来ない」という答えが増えたのは、「知っている」ことが「出来る」と認識していたため、そのことに気づいたからである。応急手当は、適当にやるのは良くないと考えている。

#### イ 教職員対象 庄原格致高校作成アンケート H15年度 6～7月に1回

4月より実施している「部活動に毎日出る」ことについて、ほとんどの教員は賛成しているが、実際には校務等で忙しく、実現出来ていなかった。

それを実現するにあたり、顧問が話し合い、曜日を決めて部活動に出ることを確認した。会議がある場合も、特に危険があると思われる第1・2グラウンド、体育館については、部顧問で輪番制とし、生徒の安全に努めるよう配慮した。

#### (2) 運動部加入率と災害発生率の統計と分析

##### ア 運動部加入率（高野連除く）

過去4年間、県内上位2位以内

##### イ 災害発生率

過去3年間、県内上位7位以内

##### ウ 本校の実態から

#### (ア) けがを部位別に見ると

過去3年間、どの部位も横ばいで、あえて多いのが、下肢部の捻挫である。

#### (イ) 件数

過去3年間、全く同じ件数である。

#### (ウ) 発生月

毎年、県大会が集中する月と、新学期によく発生している。昨年から二学期制に移行したことに伴い発生月に変化が見られる。追跡調査の必要があると考える。

#### (エ) 運動種目別

ラグビー、野球が激減したが、バレー、バスケットが毎年集中して多い。特に練習等の見直しの必要性がある。

#### (オ) 発生状況

部活動中が一番多いが、学校行事や体育の授業での発生が増えている。これは、頑張りすぎの生徒がけがの痛みを我慢して全力を出す、自

